(素案)

長久手市平成こども塾マスタープラン(2026)

平成こども塾の基本理念

長久手市では、前マスタープランで今後の平成こども塾の方向性を見据えるため、平成こども塾の基本理念を「**里山の豊かな環境を生かした体験活動による、子どもたちの生きる力の育成**」と定め事業を実施することとした。

【基本理念】
里山の豊かな環境を生かした体験活動による、子どもたちの生きる力の育成

平成こども塾の基本方針と事業(2016)

基本理念をもとに、事業を進めていく基本方針を定めた。

第１章　基本方針（2016）

平成こども塾では、基本理念を達成するため、「環境学習事業」と「交流事業」の実施を基本方針とした。

⑴　環境学習事業の実施

都市近郊の本市において、自然と人との豊かな関係を見直し、地域に根ざした継続的な体験活動を通じ、子どもたちが自ら学ぶことができる環境学習を実施した。

⑵　交流事業の実施

未来のより豊かな地域作りのために、地域のシニア世代の知識や経験を積極的に活用し、地域と地域、大人と子どもがお互いにコミュニケーションを図り、世代間のつながりが生まれることで、子どもたちの生きる力を育むことができる事業を実施した。

第２章　前マスタープラン事業の進め方

「環境学習事業」と「交流事業」を効果的かつ継続的に推進するため、次の手法で事業を進めた。

⑴　体験活動を幅広く行う

里山の豊かな環境を生かした体験活動の方法は、見ること、感じること、触れることなど様々あり、安全を確保しつつ、幅広く体験活動を実施した。

⑵　地域の住民が関わる

平成こども塾で行う体験活動の中には、長久手独自の技、知恵が込められていることがあります。シニア世代など、地域の住民が教え手となり、体験活動を通して里山の豊かな環境や文化などを伝えてきた。

⑶　専門家が関わり、人を育てる

常に新たな環境学習活動を行うために、専門家が関わり、同時に協働する人材を育ててきた。

⑷　多くの人が体験活動の楽しさを体験する

自然や地域社会と深く関わる機会が減少している中、「里山の豊かな環境を生かした体験活動」に参加することは、子どもたち自らの考える力を伸ばし、生活にゆとりをもたらし、健康につながるなどいろいろな楽しみを与えます。このような楽しみを多くの人が体験できるようにした。

⑸　多くの人とお互いにコミュニケーションを図る

核家族化が進んでいる本市において、子どもが普段交流することが少ないシニア世代とふれあい、子どもたちが体験活動をする過程で、先人たちの知識や経験を学びながら、自分とは違う立場の人とのコミュニケーションを図る社会の大切さを認識できるようにしてきた。

⑹　様々な主体と連携して活動の幅を広げる

里山の豊かな環境を生かした体験活動は、環境、教育、まちづくり、福祉、歴史、文化、食等様々な角度から行うことができます。活動の範囲をさらに広げていくため、教育委員会、小中学校、文化の家、児童館、市内の教育関係団体、福祉団体、NPO 法人等、様々な主体との連携を図ってきた。

第３章　前マスタープランの課題と結果

前マスタープランでは、平成こども塾の取り組み成果を明らかにするため、アンケート調査を実施し、主な成果と課題を以下のとおり抽出し、事業に取り組んできた。

⑴　学校連携プログラム

より多くの子どもたちが、多くの学びを得られるようにするために、さらに充実したプログラムの実施

→平成こども塾で小学校６年間で３回体験する。

⑵　プログラムの内容・方法

実施団体とより綿密な連携を図り、子どもたちがよりよい体験活動ができる環境作り

→プログラム内容は、各学校に毎年次年度の要望を聞き実施しており、5年生以外は内容が変わっている。自然に囲まれた平成こども塾でのプログラム体験は有意義である。

⑶　場所・交通手段

参加者に利用しやすい環境作りに努める必要

→平成こども塾は、自然に囲まれた長久手市の東部にある施設であるため公共交通から離れており、プラグラム開始日時など考慮が必要である。

⑷　プログラムの申込み

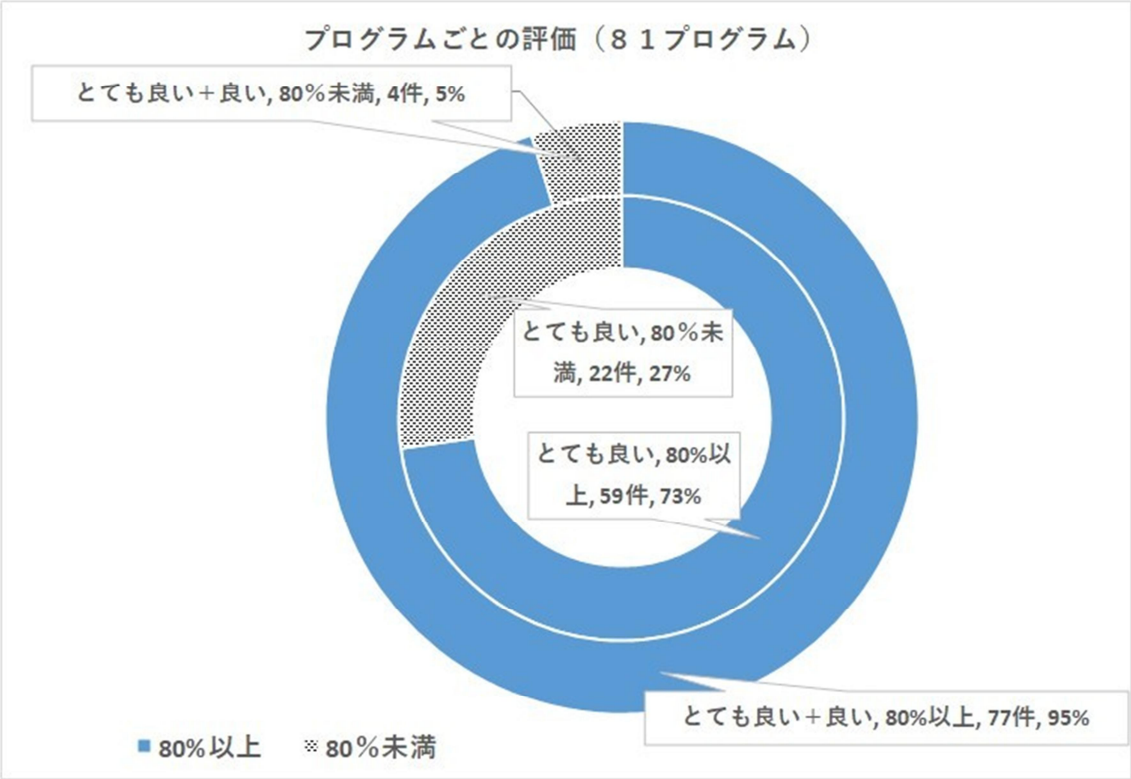
より多くの参加者に参加してもらえるような環境作り

→プログラムの申し込みは、令和６年度に電話申し込みから HP からの電子申し込みへ変更し利便性向上に努めている。

第４章　平成こども塾の基本理念（２０２６）

前マスタープランと直近アンケート結果を踏まえ平成こども塾の基本理念を定める。

平成こども塾では、全プログラム実施後アンケートを実施している。令和８年度（令和８年４月～令和８年９月）のアンケート結果は、学校連携プログラム、平成こども塾プログラム、専門プログラム、平成こども塾プログラムあわせて８１プログラムのうち８０パーセント以上の参加者が「とても良い」「良い」と評価をしている。



学校連携活動においては、引率の先生からも引き続き学校連携プログラムに参加したい感想が寄せられている。

以上のことを踏まえ平成こども塾の**基本理念**は、前マスタープランの基本理念を継続するとともに、平成こども塾で体験したことを深く理解し、普段の生活の場面でも活用できるように「**自然環境を生かした体験学習活動による、子どもたちの確かな知識の習得**」とします。

第５章　平成こども塾の基本方針と事業

本マスタープランは、令和８年度の策定とし、計画期間は令和９年度から令和１８年度までの１０年間とします。

平成こども塾では、基本理念をもとに、以下のとおり基本方針を定め事業を進めます。

１　基本方針

基本理念を達成するため、「体験学習事業」と「交流事業」の実施を基本方針とします。

⑴　体験学習事業の実施

平成こども塾の自然に囲まれた環境を生かし、体験学習事業を実施します。

⑵　交流事業の実施

シニア世代と子どもたちが交流し、コミュニケーションをはかりながら子どもたちの生きる力を育む事業を実施します。

２　平成こども塾の今後のあり方について

平成こども塾は２００５年の愛知万博後、２０年にわたり事業を継続してきた。今後の１０年は、長久手市の人口減少になっていくことを踏まえ平成こども塾のあり方について事業を実施しながら検討することが必要である。

またあわせて、長久手市の昨今の財政状況から、平成こども塾のプログラム全体の検討も必要である。

3　事業概要

体験学習事業と交流事業を進めるため、サポータープログラムと民間主導方の専門知識を積極的に取り入れ、事業内容の向上を目指し以下のとおり実施します。

平成こども塾のプログラムを行う組織体制は、4本の柱で事業を実施します。

⑴　学校連携プログラム

小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを平成こども塾で体験するプログラム

⑵　平成こども塾プログラム

長野県南木曾町、近隣大学、日本介助犬協会など、様々な団体と連携して自然や文化を体験するプログラム

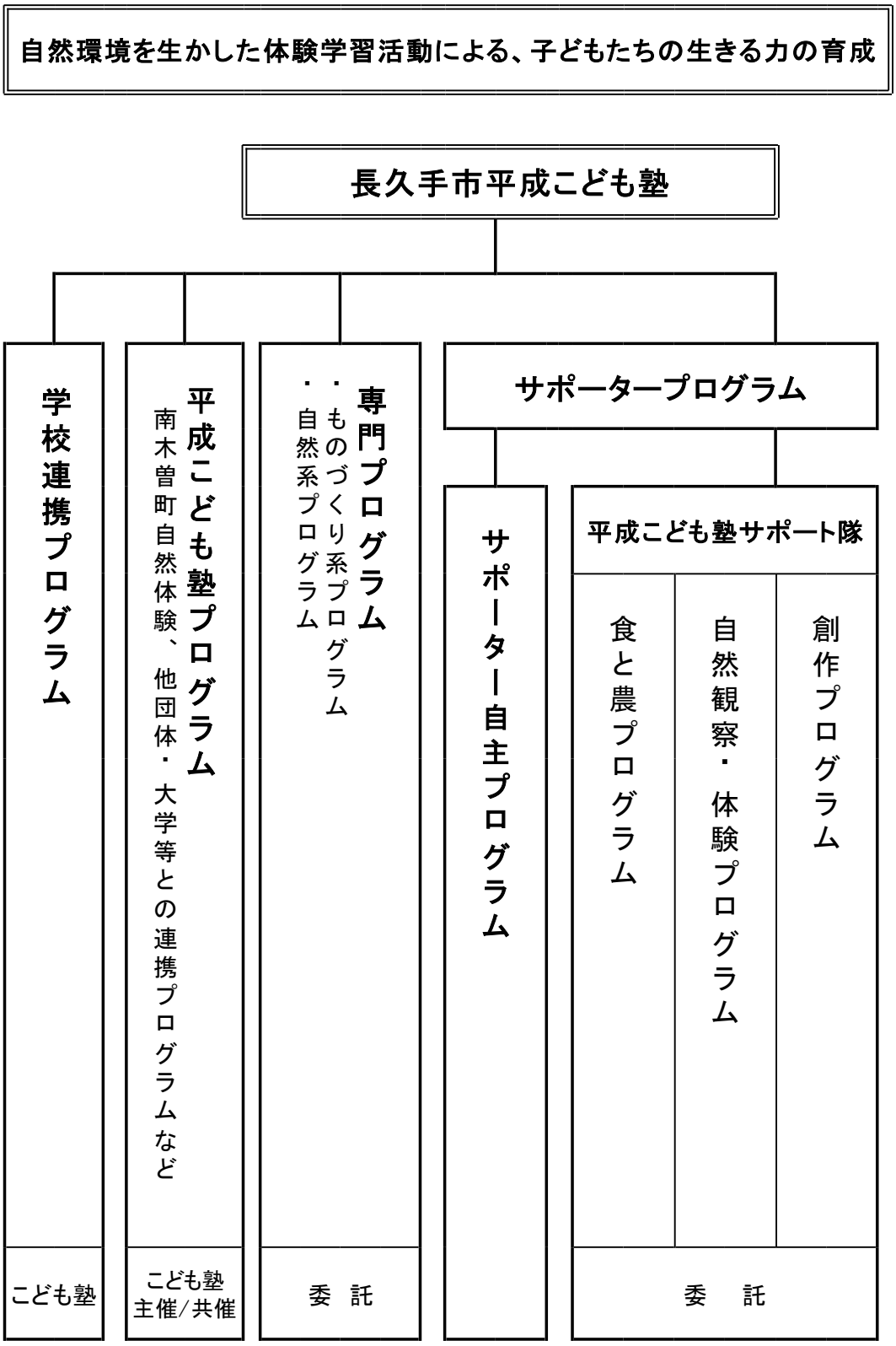
⑶　専門プログラム

専門家を講師にまねき、1年間を通して、ものづくりや自然観察等を体験する会員制プログラム

⑷　平成こども塾サポート隊プログラム

地域のボランティアが主体となり、「食と農」「ものづくり」「自然観察」などをテーマとして、それぞれのグループが体験活動を行うプログラム

４　４本の柱


自然環境を生かした体験学習活動による、子どもたちの生きる力の育成
長久手市平成こども塾
学校連携プログラム
こども塾
平成こども塾プログラム
南木曽町自然体験、他団体・大学等との連携プログラムなど
こども塾
主催/共催
専門プログラム
・ものづくり系プログラム
・自然系プログラム
委　託
サポータープログラム
サポーター自主プログラム
平成こども塾サポート隊
創作プログラム
自然観察・体験プログラム
食と農プログラム
委　託